

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501509
法人名	有限会社 二神
事業所名	グループホーム コロナ (1, 2)
所在地	津市大里窪田町1706-26
自己評価作成日	平成 24年 7月 31日 (火)
評価結果市町提出日	平成 24年 10月 2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2470501509-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24年 8月 23日 (木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 入居者の健康管理	2. 入居者の希望、要求の達成	3. 愛情を持って介護する
-------------	-----------------	---------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温厚で気さくな代表者は、二神クリニックの医師でありながら、介護支援専門員の資格もあり、「患者様にはいつまでも元気にしてほしい、最後まで一緒に過ごしたい」との思いで当事業所を設立された。医療の必要な方や不穏状態にあった方でも代表者の毎日2回ある訪問や、介護スタッフの温かい支援で安心して地域で生活ができている。2ユニット(1階と2階、エレベーターあり)の、どちらの利用者も開所当時に比べ年々重度化しているのが現状であるが、穏やかに過ごされており、ボランティアによる手品や三味線で楽しんだり、その人らしく自由に暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム コロナの理念は、「地域に密着し愛情を持って」であり、管理者及び職員はその理念を共有し、日々実践している。また、新規採用職員に対しても、採用時常に指導している。	職員は常に利用者に家族同様の愛情を持って接しており、利用者は安心して自由に暮らしている。地域の方々から差し入れを頂く等良い関係にあり、理念が実践されている状況が見られる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所との交流もあり、季節の野菜や果物を貰ったり、地域の方が作った果物などを貰ったりして親交を深めている。また平成21年から、コロナ通信を地域の人に見てもらおうよう、各家庭に配ることにした。	日常の挨拶はもとより、地区の運動会にも利用者・職員共に参加している。緊急時に、近隣の方々が協力してくれたこともあり、事業所と地域の相互関係が成り立っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 <small>http://www.kalgokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kanitrue&ligosyoCd=2470501509-00&PreICd=24&VersionCd=022</small>	コロナ通信、散歩時のあいさつなどで理解を深めている。また、近所の人で二神クリニックへ通院している人もいて、医師への連絡や、薬の保管等を頼まれることもしばしばある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年12月より、地域の自治会長や市役所の関係者、地域包括センターの人々、入居者家族にも参加してもらい、そこでの意見を積極的に取り入れている。	年6回開催されており、内容は勉強会や報告会等多岐にわたる。地域包括支援センターよりの提案で、傾聴ボランティアの受け入れを実践する予定であり、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町担当者を運営推進会議に招き、事業所の実情を積極的に伝え、また事故報告書も遅滞なく送付し、協力関係を築くよう努力している。	医師であり介護支援専門員でもある代表者は、市の介護保険担当理事や国保の運営担当理事も担っている。以前介護認定審査会にも携わっており、市との協働関係も良好で信頼されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に一回、虐待、身体拘束について話し合い、禁止の対象となることはしていない。	暴力や徘徊、帰宅願望等がある利用者でもその方を中心に考えて抑圧感のない暮らしを支援するために、落ち着くまで職員が時間をかけて根気よく接している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日、虐待のないことを確認し、また職員に対しては、虐待に当たる行為は絶対しないよう常に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は青年貢献制度に該当する入居者がいて、それを活用するよう支援していたが、その入居者が転居(鈴鹿市の住所のため)され、現在該当する入居者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書とともに、契約内容についても十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族の希望については面会するたびに聞いている。	毎月(1ユニットずつ交代)家族の方に(1組ずつ)昼食を一緒にしていただき、意見が言い易い機会作りに配慮している。その後のアンケートも実施しており、出た意見をサービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議には職員も出席しており、職員の意見を聞く機会を設けている。	現場職員が、新しい福祉道具の必要性を直接代表者に相談出来る環境であり、実際にデモ機を使用中である。温厚で気さくな代表者は、常に現場の声に耳を傾けており、その声が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境は整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では、講師を招いて講演を聞いて、勉強している。ホーム外でも、頻度は少ないが、必要に応じて研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム はつらつ、次いでベタニヤデイサービスセンター に、多くのスタッフが訪問し、交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできることは、できるだけ一緒にして、良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者を家族とともに支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	利用者の重度化に伴い、馴染みの人や場所への関心がなくなってきており、支援しづらくなっている。家族の協力で外食に出かける方はいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。	難聴の方には筆談で意思疎通を図り、意思疎通が困難な方には、日頃から表情やしぐさ、その人の癖などの微妙な変化から把握し、利用者のペースに合わせた対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成している。	介護計画はケース会議で出た意見や家族の要望を踏まえ3か月毎に見直し作成し、家族に説明している。又、毎日達成度(食事・トイレ・レクリエーション・コミュニケーション)をチェック表に記録して、変化があれば随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなどを招き、楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられている。	クリニックの医師（内科）である代表者が、毎日2回（朝・夕）回診をしている。他科受診や緊急時にも、適確な判断で他医療機関との連携がスムーズに行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回は訪問看護師が訪問し、適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と緊密に情報交換ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療についての方針を、入居時に確認し、十分な説明を行っている。	終末期の希望を入居時に医療対応確認票でとり、状況に応じてその都度家族と話し合っている。今まで4名の看取りを行った経験がある。点滴・在宅酸素、褥瘡の処置、吸引等も対応可能できる体制がある。関連クリニックの看護師の応援も可能で、代表者の指導・研修を受けている介護職員も吸引器を扱える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、二神クリニック医師が直ちに駆けつけ、適切な処置をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、緊急避難に備え、運営推進会議等で、地域の協力もお願いしている。また、月1回は防災対策について話し合っている。	年2回の避難訓練では、夜間想定（火災）や地域の小学校まで避難する等を行っている。また、毎月の防災対策会議で、事業所を地域の避難場所として利用していただくことが決まった。	地域の方々の協力が得られるように話し合いや声掛けはされているが、一緒に訓練は行っていない。より実践的な取り組みをされることに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員全員が利用者に尊敬の念を持って接しており、温かみのある話しかけ方である。利用者が失敗した行動をとっても、指摘せず、さりげなく対応し、羞恥心にも気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望を聞き入れ、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる人には、できるだけ一緒にするよう心がけている。	重度化に伴い食事の盛り付けと食器拭きをする方は少しだが、差し入れの野菜や地元の食材を活かし作られた手作りの食事を皆がペロリと平らげて満足な顔をしておられた。刻みやミキサー、トロミの工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	夜間のみ居室でポータブルトイレを利用者する方は、日中はポータブルトイレを片づけて、排泄の自立支援を行っている。失敗する方には、さりげなく対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便記録をつけて、便秘の予防に気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在、自分一人で入浴できる人がいないので、月、水、金と曜日を決め入浴介助をしているが、希望があれば、入浴できる状態にある。	入浴剤を利用し、家庭的な個浴で週三回支援している。基本的に午後の入浴だが、拒む方等には時間や担当者等の変更をして臨機応変に対応している。寝たきりの方は清拭で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々、全身状態を観察、チェックし服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアなどを招き、楽しむことができるよう支援している。また、入居者と職員が一緒にカラオケなどをしたり、一緒に歌を歌ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、家族と外出したり、歯医者さんや病院に連れて行ったりしている。	日常的な散歩の他に、可能な方は職員2名、利用者2名でドライブ(結城神社)へでかけることもある。春には花見をし、夏には事業所の外で花火大会を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる人は、自分で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の入居者ではあるが、携帯を持って家族と連絡をとったり、手紙を書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を生けたりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。	食堂は窓からの採光が心地良く、家庭的な食器棚が配置され和やかな雰囲気である。居間にはテレビを囲んでソファが設置されており、そこは利用者が自由に寛ぐ空間となっている。廊下は幅が広く、各居室からトイレや食堂居間にも移動しやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気持ちよく生活できるよう、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族と相談し、本人が居心地良く過ごせるよう話し合っている。	各居室の採光、換気も良好で季節感も味わえる。備え付けの洗面所、エアコン、ベッドの他、それぞれが衣装棚や仏壇、思い出の写真等を持ち込み自分らしく安心して過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には手すりを配置し、必要な人には歩行器等を使ってもらい、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		